

# 風のように

甘木教会



主任牧師：崔大凡

牧会委嘱牧師：竹田孝一

若者は幻を見、老人は夢を見る。

使徒言行録 2 : 17

## 【説教要旨】

刈谷時代に11年間もいながら対岸の亀崎の潮干祭りにいきませんでした。やっと小さな子どもらを連れていき、神事を見ながら、人々が楽しそうに、元気になっていく様子がわかりました。反省して、それ以来、出来るだけその地方の祭りにいくことにし、久留米のそろばん祭りに参加し、博多どんたく、山笠、放生会を見にいきました。甘木も山笠がありますね。祭りは、人にエネルギーを与えてくださると思います。聖霊降臨日も小麦の収穫感謝の祭り、モーセへの律法の授受があった日としてユダヤの国の外に散らされたディアスポラと言われる人によって祝われていました。これが五旬祭です。祭りです、エネルギーをもらう日です。弟子たちはこの祭りのとき、大きなエネルギーをもらいました。同時に私たちを動かす、生き活きさせるエネルギーの元は何かとはっきりと示されます。

聖霊です。

神は言われる。終わりの時に、／わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、／若者は幻を見、老人は夢を見る。わたしの僕やはしためにも、／そのときには、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。

終わりの時に、わたしの霊をすべての人に注ぐとあるように

教会の歩みについては、今の私たちの時代は終わりに向かって生きているのです。それは、霊によって生きる時代で、霊が注がれているということです。終わりは二つの意味で受けられるのではないのでしょうか。最後の審判としての終わり、命の、人生の終わりがあります。どちらの終わりにしても、私たちは聖霊を受けて自分があるということです。

イエスさまはこれを次のように語ります。

イエスは立ち上がって大声で言われた。「渇いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。」イエスは、御自分を信じる人々が受けようとしている“霊”について言われたのである。

「その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。」、生命と躍動が伝わるものとなるということです。受ける者は、どういう人かという「すべての人」です。ルカは引用聖書からの言葉に18節の言葉を付け加えます。それは歳の差も関係はない、若者も老人もない。男も女もない。身分の差もない、奴隷も関係ない。新しい人が社会に生まれるのです。そしてその人々には、「その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。」命の躍動に満ち満ちているのです。また、私たちもそうです。

18節で、わたしの僕やはしたためにも、／そのときには、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言するとありますようにこれをルカが付け加えたのはここにイエスの福音の意味があります。社会的な弱いもの、力のない者にも満ち満ちた力が与えられ一つのことがなされていく。

「預言」です。神の言葉を預かり語ることです。神の言葉を預かり語る光栄をすべての人まで広げていくのです。聖霊を与

えられたものは「預言」という恵を与えられるのです。モーセが神の言葉、十戒を与えられた日を記念する五旬節の祭りのとき、私たちも神の言葉を預かるのです。それは同時にみ言葉によって私たちが倒れも立ちもするということです。聖霊のいきつくところそれは神の言葉でありイエス・キリストの救いです。聖霊はイエス・キリストの救いをはっきりと私たちに与え、どうしようもない現実、自分を、丸ごと、ヨシとって抱えて、歩きだす力を与えてくださるのです。

「預言する」、つまり神の言葉を預り、伝えていくことです。聖霊降臨日は一人ひとりが、教会が「内から生きた水が川となって流れ出るようになる。」というように生きる根拠をもつこと同時に「流れ出る」とあります。聖霊を受けた者、教会は明日に希望をもって、流れる川のようにイエス・キリストのみ言葉、命、愛を伝えていくのです。私たちは、み言葉を伝えていく者とされています。「すべての人」のなされるものです。聖霊が働いているのです。預言する、み言葉を伝えるとは、人の業でなく聖霊の働きで、聖霊がすべての人にとどき、明日に希望をもって、幻も夢も語りえる者となるのです。

現代、私たちの社会は大変化して、打ちのめされそうになります。小説家・高田郁さんは、「ふるさとと銀河線」の結びで語っています。「生きにくい時代です。辛いこと哀しいことが多く、幸福は遠すぎて、明日に希望を見いだすことは難しいかもしれません。それでも、遠い遠い先にある幸福を信じていたい---今を生きているあなたにとって、この本が少しでも慰めになればと願っています。あなたの明日に、優しい風がふきますように」。これが「預言」、つまり「言葉」を託された者の姿だと思います。初代教会がそうであったように時が良くても「あなたの明日に、優しい風がふきますように」と私たちは祈って主の救いを伝えていきたいですね。わたしの霊をすべての人に注ぐ。神の優しい風を届けましょう。共に幻を夢を見ていく幸福を信じていけるのが私たちであり、すべての人もそのようになるようにとみ言葉を伝えていきましょう。

# 牧師室の小窓からのぞいてみると



夏の様な天気が続くときビールが欲しくなりますね。アサヒビールが 2025 年ロシア系のハッカー集団に大規模なサイバー攻撃を受け、受注、出荷システムが停止に追いやられました記憶はあるのではないのでしょうか。

政府機関も、企業も、原稿も、病院もあるとあらゆる施設がサイバー攻撃を受けて、アサヒビールのようになりかねません。そこで政府は高度の AI を使ってサイバーセキュリティ対策をするということになりました。

いったい何を言っているのか、何をしたらよいのか分からない者にとっては、公的機関、会社、病院を機能不全にはしてはいけないと言うことは分かる。確かに技術をもって、防衛していくことは大切だが、技術はこういうことに使ってはいけないという心、良心こそを生み出す社会作りをしなくてはいけないと思う。「不法がはこびるので、愛が冷える。」と主の終わりの預言は、今、身近に来ている。



## 園長・瞑想？迷走記

### 5) 多(他)文化の中で

#### 時代の変化に対応



#### ⑤インターネット、AI の積極的使用

科学技術の発展は目まぐるしく、翻訳などはグーグル翻訳を使えば、日本語を多(他)国語に翻訳が可能になる。また、翻訳機の発達もすごく、翻訳機購入に補助金を出す市町村もある。

#### ⑥言葉を理解できる補助職員の雇用

それぞれの国の方々の協会を通して、言葉を翻訳できる方を雇用するというのも大切である。雇用している幼稚園、小学校などは既にある。

## 日毎の糧

聖書：わたしの魂よ、主をたたえよ。

主をたたえよ、ハレルヤ。詩編104:35



### ルターの言葉から



このようにキリストの国は、貧しい漁師たちのことばと、十字架につけられたナザレのイエスと呼ばれる神の、侮辱され軽蔑さです。

『マルティン・ルター日々のみことば』鍋谷堯爾編訳 いのちのことば社

### 創造のみ手

104篇は、古代エジプトのイクエンアテン作の「太陽讃歌」の影響にあると知られ壮大な神による世界創造と統治の詠った詩篇である。（詩篇8、詩篇19篇も同様に神の創造を詠っている）「当時のオリエント世界の知識人たちが共有していた自然に関する百科全書的な前提としていることは異論がない。」①

周辺、特に大国が持つ文化の影響を受けつつ、聖書は独自の信仰を言い表してきた。104篇も同じである。徹底した神の創造の御手のみという一点突破、全面展開である。

浅野順一氏は次のように言っています。「この長き詩は繰り返すごとく、神の創造の世界における美しき調和を歌ったものであり、ここには他の詩におけるがごとき苦悩、悔恨、長嘆の声を聞かない、まして敵意、憤怒、叫喚を耳にすることもない。さればこの詩が『わが魂よ、ヤーウエをほめよ、ヤーウエをほめたたよ』という神への讃美をもって始まり（1節）、また同じ讃美をもって終っていること（35節）は極めて自然なことであると言いうことができるであろう。」②

現代、人間が神のようになり創造の秩序が壊されるとき、「わたしの魂よ、主をたたえよ。主をたたえよ、ハレルヤ。詩編104:35」という讃美が必要ではないだろうか。

引用文献：①詩篇

勝村弘也

日本基督教団出版局

詩篇

新共同訳聖書注解II

太田道子

日本基督教団出版局

②詩篇

浅野順一

岩波新書

詩編の思想と信仰V

月本照男

新教出版

祈り：神よ。あなたをほめたてる心を湧き起こしてください。アーメン。

## 甘木通信

愛する妻と共に人生を見つめよ 空である人生のすべての日々を。それは、太陽の下、空であるすべての日々に 神があなたに与えたものである。それは、太陽の下でなされる労苦によって あなたが人生で受ける分である。 コレト9：9



私の仕事場、寝室、家内のオルガンの練習場に、室内干しの洗濯物がある。洗濯物を見るたびに当り前の様な風景だが、決して当り前の風景ではないいつも感じている。

洗濯物だけでない。朝夕と食卓にならぶ食事も同様である。妻がいて初めて起きる風景だと感謝している。

幼かった息子から「まあ、まあ喧嘩はよしましよ」と諭されたこともある、決して、世間の言うような夫婦ではない。

「愛する妻と共に人生を見つめよ」。「愛する妻」、人が何と云っても家内は愛する妻である。妻と共に生きることによって、「人生を見つめ」てきた。ぶつかりながらも、もっと優しく、言葉を考えよう、相手のことを考えようと人生を見つめ直している。妻がいて、自分がある。妻がなくして自分はここに居ようがない。人生で受ける分、分は神から与えられた賜物だ。分、賜物を下さった神に、妻に手を合わせている。

共には終わろうと今、妻と別れの日、死が近づいてきていることを強く感じる。妻も老いたと日々、感じている。太陽の下、空である。その通りだと実感している。自分の部屋に干されている洗濯物を見ながら妻と共に過ごせている分、神の賜物に気づかされている。古い、すべてに時がある。

(甘木日記)土) 午前中は終活の片付け。午後から甘木教会へ。夕刻から庭の手入れ。泊。蚊が飛び出し始めた。Iさんと挨拶。明日、東京だと。日) 礼拝も半ばには暑さを感じる。帰るまで水撒き。月) 本日から現役の全国牧師研修会。引退牧師は、忙しくなる。今日は休みだが代わりに出勤、礼拝を担当。火) 暑い一日が続く。幼稚園の広報、募金の会合。水) 現役牧師にかわり、他の幼稚園の誕生会の礼拝、祝福式の手伝い。帰って職員会議に出席。木) 今日は久留米、松崎、甘木、久留米、甘木とぐるぐると回る。金) 内容を変えた誕生会。みんなが一つになる誕生会となる。変えていくまで3年。やっとここまでこられた。感謝。

**おまけ・牧師のぐち**（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。  
はぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）午前中は、家の片づけをした。出来るだけ物を減らそうとするのだが  
思い出がついていてなかなかうまく運ばない。午後から甘木教会へ。あま  
りの暑さで部屋の中で仕事。よく働き、良い主の証を  
された敬服する引退されて病気になられているI牧師  
へ電話。お見舞いに行こうと思う。ブラジルにいると  
きは一緒に伝道・牧会の旅をしたが、自分の旅に老い  
と共に違う景色に現れた。すべてに時あり。日）「暑



い」の一言。今日も礼拝出席が少ないと一緒に讃美、み言葉、祈りを。大  
学生、聖書朗読のため保育園の職員の出席あり。感謝。リハビリで入院  
しているM牧師は、お孫さん、お嬢さん二人、姉妹（きょうだい）そして  
奥様と定期的に訪問されている。幸せである。去年は大病気したが入院寸  
前だった。入院しときこれほどは妻も、子も訪ねてはくれないだろう。

（笑）。杏の花が青空に映える。役員会の準備。月）幼稚園は休みの日だ  
が、牧師さんらの全国牧師会研修会のために留守になり、出勤。礼拝を担  
当。今日も暑く、脱水症に注意しなくては・・・。夕刻、甘木に芝生に水  
撒きに行く。帰宅は9時近くになる。往復2時間の間に本を読む。高田郁  
の小説は面白い。ここで安売りしているスーパーに。火）朝、詩篇の聖書  
解釈をし、学びをする。今日も暑い日が続く。園児・職員の脱水症が心配  
だが、先生方が工夫をされて、水遊びなどして遊んでいる。もう夏。広

報、募金の打ち合わせ。どう幼稚園に進入園児を迎えるか。甘木の植え付  
けた芝が心配である。水）朝礼を終わって、牧師さんらの全国牧師会研修  
会のために博多にある幼稚園の誕生日礼拝、祝福にC牧師に代わりに行  
く。他園を見るのもこれも良い。引き返し駅の下は三越、食料品に寄り、  
職員に破れ饅頭を買って帰園。職員会議に間に合う。新入園児1名が加わ  
る。次男が母の日に家内に送ってくれたプレゼントのおすそ分けで夕食。よ  
く動く。今日も往復2時間の旅。動けることに感謝。本は読めるし、車  
窓、内を見るだけでも楽しい。刺激はあるが少々ボケてきた。木）久留米  
➡松崎保育園➡甘木教会➡久留米・日善幼稚園➡甘木教会➡久留米自宅。

今日もよく動いた。芋（日善）ゴーヤ（甘木）の苗植え、  
その間、羽村幼稚園のzoo会議とよく動いた。最後は明日  
の弁当の購入で、スーパーの閉まる30分前に行く。（笑）

金）幼稚園に日本固有の山紫陽花が咲いている。昨年、切  
りすぎて花が少ない。誕生会は内容も変わり、みんなが一  
つになった会。感動し、涙ぐむ。変えていくという努力が  
実った。また夏日が帰ってきた。水菜の種を子どもと蒔く。

